

**生涯学習のマネジメント
—ガバメントとガバナンス**

2022/05/26 白鷗大学教授 児玉博昭

まちづくりと私

皆さん「思川カフェ」って覚えていますか

おやま大学ネットワーク

小山の大学・高専連携
白鷗大など3校が協印式

シンポジウム「地域社会と大学」

大学と地域の連携探る
「おやま」5校が連携

おやま産学官ネットワーク

小山
産学官ネットワークが初代会

(出所) 読売新聞 2002年7月26日

(出所) 下野新聞 2002年8月27日

(出所) 下野新聞 2002年9月

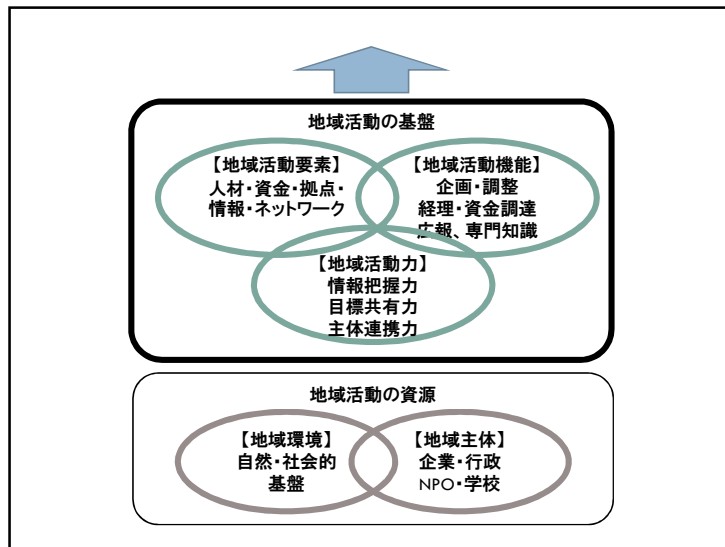
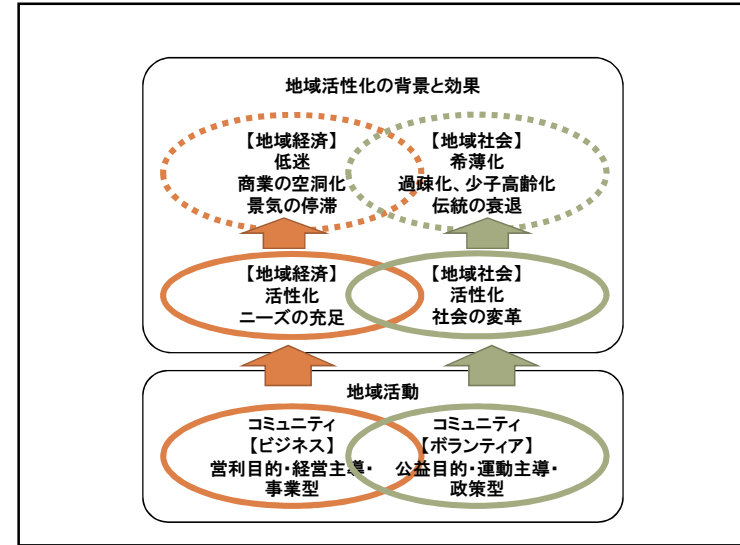
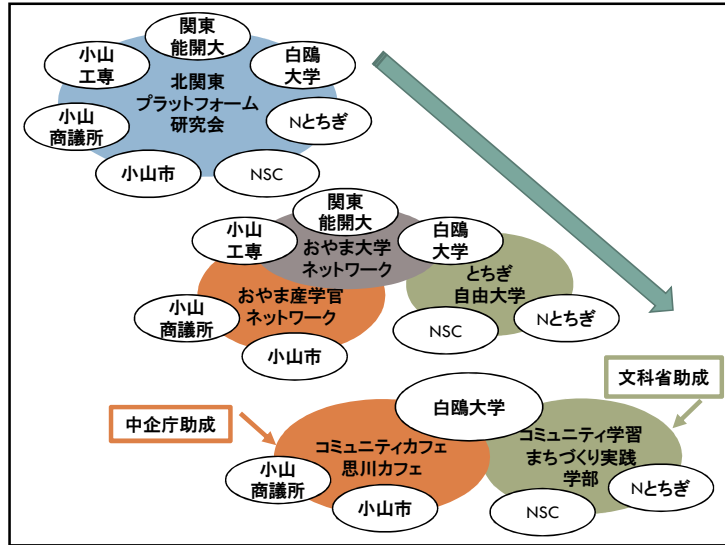
小山駅西口
空き店舗に
ジャズ喫茶

「経営陣」は白鷗大生
お菓子やイベント企画

まちづくりに独自茶
栃本市民に提案、高専交換

とちぎ自由大学
(出所) 下野新聞
2004年3月12日

思川カフェ
(出所) 栃木よみうり
2003年5月27日

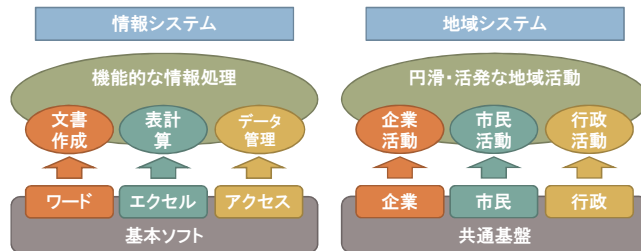


生涯学習と市民活動

持続可能なまちづくりのための基盤

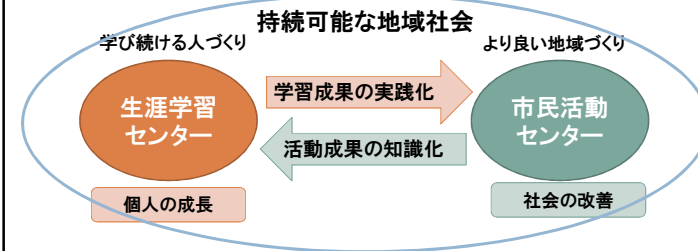
まちづくりの基盤づくり

- 地域システムにもプラットフォームが必要
→活動自体よりも、前提となる活動基盤が重要



生涯学習と市民活動

- 生涯学習と市民活動はまちづくりの両輪
 - 生涯学習での知識を市民活動で実践
 - 市民活動での経験を次世代に伝授



悪魔の代弁者

対話の質を高めるためにあえて挑発する

懇話会の困惑

- 運営に関する懇話会なのに理念の説明ばかり、本題に入らずイライラが募る
- 生涯学習の概念が抽象的、市民活動との関係も不明確、議論がかみ合わず着地点が見えない
- 生涯学習の意義を唱えれば予算が付くと勘違い、マネジメントの無理解こそ予算削減の原因では
- 生涯学習はコストではなく投資、大事なものはコストを下げるより成果を上げること
- 直営と委託どちらがより成果を出せるかは、行政が内部管理と外注管理のどちらが得意かによる

生涯学習のマネジメント

ガバメント(直営)か、ガバナンス(委託)か

ガバメントからガバナンスへ

- サービスの担い手は多元化、政府は舵取り役に
 - 例:介護保険制度では措置から契約へ転換

従前の介護施策制度	介護保険制度
行政窓口申請し、市町村がサービス決定	⇒ 利用者が自らサービスの種類や事業者を選んで利用
医療と福祉を別々に申込み	⇒ ケアプランを作って医療・福祉サービスを総合的に利用
市町村や公的団体(社協など)中心のサービス提供	⇒ 民間企業・農協・生協・NPOなど多様な事業者によるサービス提供
中高所得者にとって利用者負担が重く利用しにくい	⇒ 所得にかかわらず1割の利用者負担

ガバナンス下のマネジメント

- マネジメントは内部管理から外部管理へ
 - 政府の縮小と断片化→実施統制の弱体化
 - 計画と執行の分離→企画能力の低下
 - 執行過程の複雑化→責任の不明確化

課題	対策	介護施策の例
政府の縮小と断片化による実施統制の弱体化	補助金等で財政的統制、協定等で契約的管理	介護報酬の改定で介護サービスを統制
計画と執行の分離による企画能力の低下	人事交流で現場経験、実施機関から企画公募	市職員を計画官に任用、市提案の介護支援ボランティア特区を制度化
執行過程の複雑化に伴う責任の不明確化	情報公開・サービス評価で説明責任、義務付け・罰則で履行確保	介護サービス情報の公表、事業者に立入検査、処分逃れ対策

生涯学習のマネジメント方法

- 生涯学習は人材への投資と捉える
 - コストを下げるより成果を上げることが大事
 - 予算金額ではなく事業内容で判断
- 行政の運営にふさわしい講座内容を
 - 個人が楽しむ講座なら、民間が受講料収入で運営
 - 税金を投入するなら、社会に還元される講座を企画
- 問われるのは行政のマネジメント能力
 - 職員であれ業者であれ使いこなせないと無駄
 - 組織的統制、契約的管理どちらが得意か
 - 庁内調整に手間取るようでは...、趣味の講座運営にA評価を出すようでは...